

令和2年9月8日

記者発表

県立博物館施設「秋の特別展」のご案内

「第36回国民文化祭・わかやま2021、第21回全国障害者芸術・文化祭わかやま大会」の開催までいよいよあと1年となりました！

県立博物館施設（紀伊風土記の丘・近代美術館・博物館）では来年に向け、格別な「秋の特別展」を開催します！

県立紀伊風土記の丘

3年に一度の大規模展

「埴輪が語る古墳の祀り」^{まつ}

会期：令和2年10月3日（土）～12月6日（日）

【みどころ】

古墳時代の政治の中心であるヤマト政権の大王墓と紀伊の首長墓で執り行われた埴輪や土器を用いた古墳の祀りを紹介し、紀伊における古墳祭祀の時期的な変化やその意味について紐解いていきます。教科書にも掲載されている仁徳天皇陵古墳出土巫女形埴輪や三重県宝塚1号墳出土全国最大級の船形埴輪など当時の大王墓クラスの墓に立てられているような埴輪をみることもできるとともに、重要文化財で全国唯一である大日山35号墳出土「翼を広げた鳥形埴輪」や同古墳出土「大型家形埴輪」、県指定である車駕之古址古墳出土「冪形埴輪」などの極めて貴重な埴輪をはじめ、紀伊の主要な古墳の埴輪・土器を一同にご覧いただくことができる初めての展覧会です。

【開会式及び内覧会】

日時：令和2年10月2日（金） 午前11時30分より

会場：和歌山県立紀伊風土記の丘 資料館

和歌山市岩橋1411 TEL:073-471-6123

県立近代美術館

開館50周年記念

「もうひとつの日本美術史- 近現代版画の名作2020」

会期：令和2年9月19日（土）～11月23日（月・祝）

【みどころ】

版画は、この国の文化を豊かにし、海外へそれを伝えてきた重要な美術表現です。県立近代美術館では、本県が田中恭吉や浜口陽三など重要な版画家を輩出していることから、1970年の開館

以来、版画の紹介や研究、収集に力を入れており、その蓄積は国内有数のものです。本展はそれをもとに、福島県立美術館をはじめとする各地の美術館コレクションをあわせ、近代から現代に至る日本の版画100年の歴史を編み直そうとする画期的な展覧会です。

県立博物館

粉河寺創建1250年記念

「国宝粉河寺縁起と粉河寺の歴史」

会期：令和2年10月17日（土）～11月23日（月・祝）

【みどころ】

西国三十三所第三番札所、観音信仰の聖地、粉河寺。その名は、粉河観音の霊験を描いた日本最古の縁起絵巻の一つである国宝・粉河寺縁起によって全国に広く知られています。その創建1250年の節目の今年、全長約20メートルの粉河寺縁起の全貌をご紹介します（前後期で展示替えあり）。和歌山県で粉河寺縁起を展示・公開するのは、19年ぶりのことです。

また、粉河寺には、国宝の縁起絵巻以外にも多数の絵巻物が伝わり、また、かつての粉河寺領である周辺地域の仏像・仏画・古文書もあわせて紹介し、粉河寺の豊饒な歴史と重厚な宗教文化を、現代に浮かび上がらせます。

担当課	県立紀伊風土記の丘学芸課
担当者	金澤 舞
電話	073-471-6123

担当課	県立近代美術館学芸課
担当者	植野 比佐見
電話	073-436-8691

担当課	県立博物館学芸課
担当者	大河内 智之
電話	073-436-8684

担当課	文化遺産課	文化学術課
担当者	葛城 智美	藤山 昌子
電話	073-488-6293	073-441-2050

令和2年度秋期特別展「埴輪が語る古墳の^{まつ}祭り」

今回の特別展では、古墳時代の政治の中心であるヤマト政権の大王墓と紀伊の首長墓などで執り行われた埴輪や土器を用いた古墳の祭りを紹介し、紀伊での古墳祭祀の時代的な変化やその意味について紐解いていきます。

展示資料は全48件800点（うち重要文化財38件、県指定文化財5件、市指定文化財1件）。

会期：令和2年10月3日（土）から令和2年12月6日（日）

月曜日休館、ただし11月23日（月）は開館、11月24日（日）は休館

【みどころ1】紀伊の主要な埴輪が一同に集結します。

特別史跡岩橋千塚古墳群大日山35号墳（和歌山市）出土の重要文化財である大型の家形埴輪や日本で唯一の翼を広げた鳥形埴輪、両面人物埴輪、県指定史跡車駕之古址古墳（和歌山市）出土の県指定文化財である冪形埴輪、初公開となる大谷山22号墳（和歌山市）出土の盾持人形埴輪や翼を広げた鳥形埴輪、さらに天神山古墳（有田郡湯浅町）や県内最南端の埴輪出土事例である権現平1号墳（西牟婁郡白浜町）から出土した埴輪など、紀北から紀南に至る貴重な埴輪を一同にご覧いただけます。



車駕之古址古墳 冪形埴輪
(和歌山市所蔵、県指定文化財)



大日山35号墳 家形埴輪
(和歌山県教育委員会所蔵、重要文化財)



大谷山22号墳 盾持人形埴輪
(和歌山市所蔵)



大日山35号墳 翼を広げた鳥形埴輪
(和歌山県教育委員会所蔵・重要文化財)



井辺八幡山古墳 力士形埴輪
(和歌山市所蔵、市指定文化財)

【みどころ2】ヤマト政権の大王墓クラスの埴輪がやってきます。

宝塚1号墳（三重県松阪市）出土の極めて珍しい船形埴輪や教科書にも掲載されている仁徳天皇陵古墳（大阪府堺市）出土の巫女形埴輪、6世紀の大王である「継体大王」の墓とされる今城塚古墳（大阪府高槻市）出土の鶏形埴輪など、ヤマト政権の大王墓クラスの埴輪をご覧ください。



仁徳天皇陵古墳 巫女形埴輪【複製品】
(宮内庁所蔵)



今城塚古墳 鶏形埴輪 (高槻市所蔵)



今城塚古墳 鶏形埴輪
(大阪府高槻市今城塚古代歴史館所蔵)

【みどころ3】特別展講座・関連シンポジウムを開催します。

特別展会期中に関連シンポジウムを開催します（11月8日（日）、詳しい内容・講師等についてはチラシ裏面をご覧ください）。

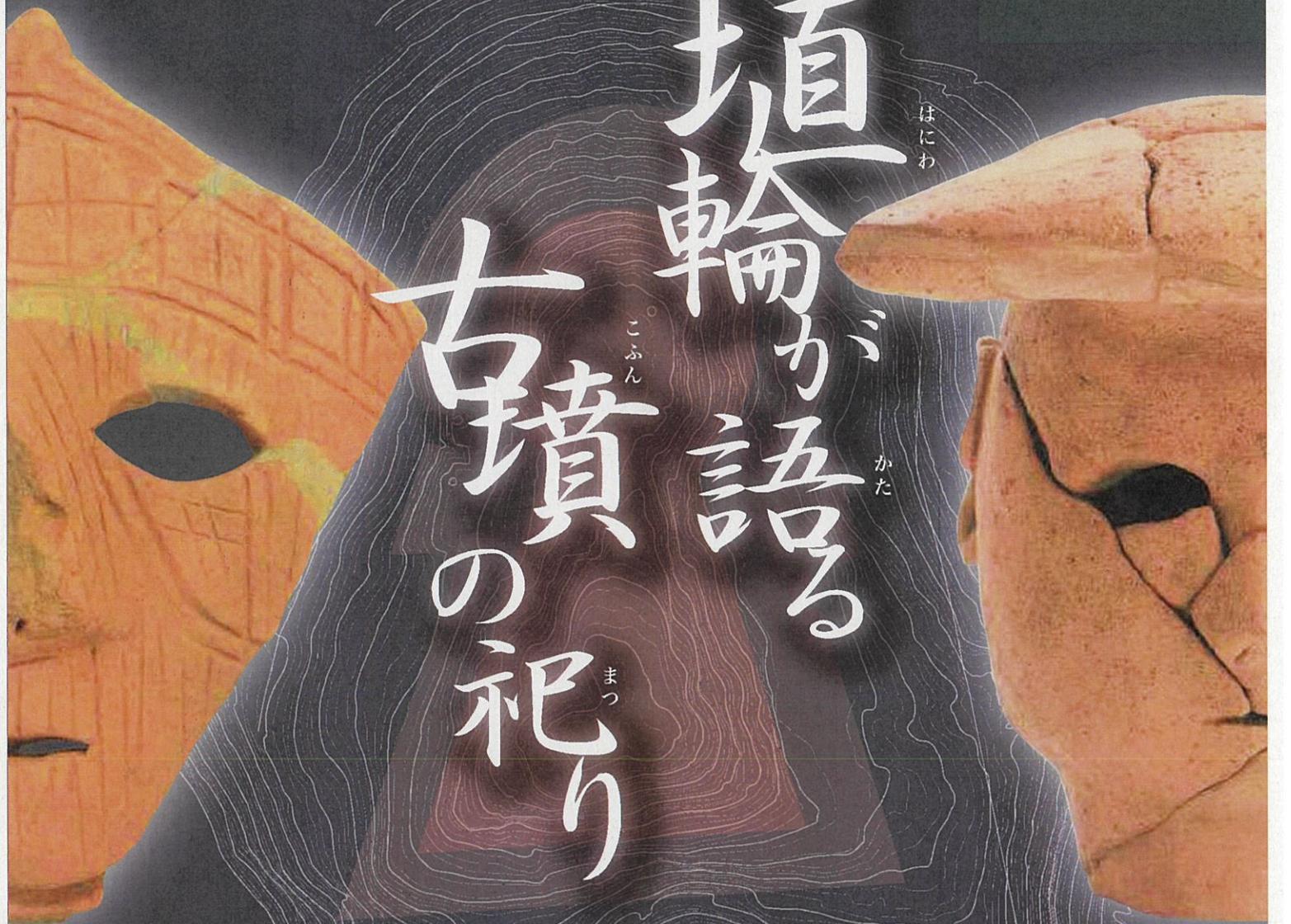
またあわせて、特別展会期中に全2回の特別展講座を実施します（①10月11日（日）、②11月29日（日）、詳しい内容・講師等についてはチラシ裏面をご覧ください）。

新進気鋭の若手研究者等による最新の調査研究成果などを基にした講演を通じて、古墳で執り行われる埴輪等を使った祭祀を様々な視点から紐解いていきます。

※展示替えの情報等は後日、当館ホームページでもお知らせします。

新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、開催行事に変更が生じる場合があります。その際は、当館ホームページでお知らせします。

担当課(室)	県立紀伊風土記の丘
担当者	学芸員 金澤 舞
電話	073-471-6123
E-mail	kofun@kiifudoki.wakayama-c.ed.jp

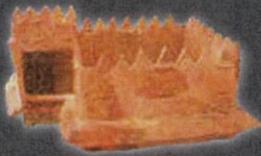


埴輪が語る 古墳の祀り

盾持人形埴輪
(大谷山22号墳・和歌山市所蔵)

巫女形埴輪
(大日山35号墳・和歌山県教育委員会所蔵・重要文化財)

2020年
10月3日(土) ▶ 12月6日(日)



冢形埴輪
(車馬之古墳古墳・和歌山市所蔵・県指定文化財)



家形埴輪
(大日山35号墳・和歌山県教育委員会所蔵・重要文化財)



船形埴輪【複製】
(宝塚1号墳・三重県松阪市教育委員会所蔵)



力士形埴輪
(井辺八幡山古墳・和歌山市所蔵・市指定文化財)



鶏形埴輪
(今城塚古墳・大阪府高槻市所蔵)

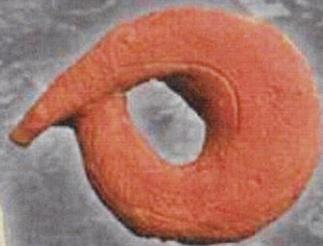


巫女形埴輪【複製】
(仁徳天皇陵古墳・宮内庁所蔵)

埴輪が語る 古墳の祀り



高野塚古墳(和歌山県和歌山市所蔵)



高野塚古墳(和歌山県和歌山市所蔵)
高野塚古墳(和歌山県和歌山市所蔵)
高野塚古墳(和歌山県和歌山市所蔵)

埴輪を立て、うつわを捧げる。 亡き首長への祈り

3世紀中頃から7世紀の古墳時代には、前方後円墳に代表される古墳が数多く造られました。古墳は、大王や首長たちのお墓で、その大きさや形が彼らの権力や政治的な身分を表す一方、遺体の埋葬に伴いさまざまな祀りが執り行われる舞台でもありました。

この祀りの舞台である古墳には、うつわを捧げもつ巫女や武器を掲げる武人、豪華に飾り立てた馬、神殿を思わせる大きな高床の家など多様な埴輪が、一定のルールのもと組み合わせられて立て並べられ、さまざまな情景を表現していたと考えられます。土師器や須恵器と呼ばれる土器もまた、古墳に埋葬された亡き首長たちへの捧げものとして用いられました。

埴輪を用いた古墳の祀りは、古墳時代の幕開けとともに畿内のヤマト政権により生み出され、各地域の首長たちの間に広まっていきます。埴輪などの造形や配置に表される祀りの内容は、時代とともにその姿を変えながら、さらにそれぞれの地域で独自の姿へと発展していったと考えられます。

本展では、畿内など紀伊の古墳に立てられた埴輪と塔の「造形」や「配置」から、紀伊の古墳祭祀について紐解いていきたいと思います。



普通円筒形埴輪
(天田28号墳・御坊市
教育委員会所蔵)



水鳥形埴輪
(嵐山古墳・奈良県広陵町教育委員会所蔵)

特別展関連シンポジウム

日程 11月8日(日) **時間** 10:00~16:30

会場 和歌山県立紀伊風土記の丘 資料館 **参加費** 資料代+入館料

- 講演**
- 「祭祀・古墳・埴輪—祭祀の視点から考える死者と古墳の関係—」 講師: 笹生衛氏(国学院大学)
 - 「魏晉南北朝陵墓の陵園空間と喪葬」 講師: 藤井康隆氏(名古屋市博物館)
 - 「韓半島三国時代の古墳祭祀」 講師: 山本孝文氏(日本大学)
 - 「古墳への埴輪・土器の配置とその思想」 講師: 和田一之輔氏(独)国立文化財機構 奈良文化財研究所
 - 「紀伊の埴輪と土器祭祀」 講師: 金澤舞(当館)

討議司会 辻川哲嗣氏((公財)滋賀県文化財保護協会) **電話申込** 10月23日(金)13:00~ **定員** 45名(先着順)

特別展講座

日程 10月11日(日)

第1回 「九州における埴輪と石人石馬の配置—福岡県の事例を中心に—」 講師: 井上義也氏(福岡県春日市教育委員会)
「岩橋千塚周辺にみる埴輪祭祀とその意味」 講師: 金澤舞(当館)

日程 11月29日(日)

第2回 「今城塚古墳にみる大王墓の埴輪祭祀」 講師: 今西康宏氏(大阪府高槻市立今城塚古代歴史館)
「儀礼の場の変遷からみる岩橋千塚古墳群の特質」 講師: 藤井幸司氏(文化庁)

会場 和歌山県立紀伊風土記の丘 資料館 **時間** 13:30~15:30 **参加費** 資料代+入館料

電話申込 第1回 9月25日(金)13:00~ **定員** 30名(先着順)

第2回 11月13日(金)13:00~

学芸員による展示解説

日程 10月17日(土)、10月24日(土)、11月22日(日)

時間 13:30~14:30 **参加費** 入館料 **参加方法** 当日受付



須恵器器師付き耳環(井辺八幡山古墳・同志社大学歴史資料館保管・和歌山市所蔵)



馬形埴輪(前山A58号墳・和歌山県教育委員会所蔵)



交通

- ・JR和歌山駅東口-和歌山バス(紀伊風土記の丘)行き 終点下車 バス発車時刻 平日:7:50 9:00 10:00 11:50 13:35 14:35 15:35 土・日・休日:9:00 10:00 11:50 13:35 14:35 15:35
- ・阪和自動車道-和歌山インターから車で約5分

和歌山県立紀伊風土記の丘

〒640-8301 和歌山市岩橋 1411 電話 073-471-6123

【開館時間】9:00~16:30(入館 16:00まで)【休館日】毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は次の平日)

【入館料・特別展期間】一般360円(290円)・大学生220円(160円)※高校生以下、.65歳以上、障害者及び県内在学の留学生の方は無料(要:証明書)

()内は20名以上の団体料金

※今後の新型コロナウイルス感染症拡大の状況によっては開催中止等の変更が生じる場合があります。詳しくは当館HPをご確認ください。



もりのひびきのの日本美術史

開館50周年記念



1. 裕 伊之助《南仏の田舎娘》1931頃 和歌山県立近代美術館蔵

近現代版画の名作2020

2020年9月19日(土) - 11月23日(月・祝)

*10月26日(月)に一部展示替えを行います。

プレス向け解説会のご案内 9月18日(金) 13時~14時

プレス関係者を対象に内覧会を実施いたします。ぜひ、この機会を利用してご取材いただき、展覧会の魅力を発信していただきますようお願い申し上げます。

和歌山県立近代美術館

〒640-8137 和歌山市吹上 1-4-14

TEL 073-436-8690 FAX 073-436-1337

E-MAIL moma_w@future.ocn.ne.jp WEB <http://www.momaw.jp/>

開館 50 周年記念

もうひとつの日本美術史 — 近現代版画の名作 2020

2020 年 9 月 19 日 (土) ~ 11 月 23 日 (月・祝)

版画は、わが国の美術の歴史を語る上で欠かせないものであり、海外から見た日本の美術を特色づける重要な表現です。浮世絵は西欧の近代美術を多彩にし、また戦後の版画家たちの国際的な活躍は、海外で日本の現代美術が認められるきっかけを作りました。しかしながら国内においては、江戸時代までの浮世絵から脱して、近代以降、美術表現としての立場を獲得するまでには、長い時間がかかったと言わざるを得ません。例えば 1964 年の東京オリンピックに際して、国立近代美術館（現在の東京国立近代美術館）で開催された芸術展示「近代日本の名作」展では、自国の美術の歴史を語る文脈において、版画には十分に光が当てられませんでした。その後、1970 年代から 80 年代にかけて、日本各地に公立の美術館が次々に設置され、各館は地域の風土とそこで生み出される表現に向き合いながら、現在まで研究・収集活動を続けてきました。その営みは、中央から見える「日本」の姿と同じではないかもしれません。しかしそこに確かに積み重ねられてきた表現の数々を、美術の歴史として捉え直し、提示することが、地方美術館の仕事のひとつであるとも考えます。特に版画という分野においては、近代から現代までをひとつの流れとして見つめ直す課題が残されています。

本展覧会は、戦後 75 年、また 21 世紀に入って 20 年を経た 2020 年という節目の年に、地方都市にあるふたつの県立美術館である福島県立美術館と和歌山県立近代美術館のコレクションを中心に、この版画という文脈において、地方から見えるもうひとつの近現代日本美術史を編み直そうとする試みです。また、当館にとっては開館 50 周年を記念した展覧会です。



2. 斎藤清《凝視(花)》1950
福島県立美術館蔵 © Hisako Watanabe

開催概要

- 会場 和歌山県立近代美術館 2階展示室
- 主催 和歌山県立近代美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会
- 協賛 ライオン、大日本印刷、損保ジャパン
- 会期 2020年9月19日(土)～11月23日(月・祝)
- 開館時間 9時30分～17時(入場は16時30分まで)
- 休館日 月曜日(9月21日、11月23日は開館し、9月23日休館)
- 観覧料 一般 800(640)円、大学生 500(400)円
()内は20名以上の団体料金
※ 高校生以下、65歳以上、障害者の方、県内に在学中の外国人留学生は無料
※ 第4土曜日(9月26日、10月24日)「紀陽文化財団の日」として大学生無料
※ 11月22日は「ふるさと誕生日」として無料



3. 山口啓介《雨の記憶》1991 国立国際美術館蔵

記念講演会

- ▶ 10月4日(日)
竹久夢二と『月映』 井上芳子(当館学芸課長)
- ▶ 11月3日(火・祝)
日本の近現代美術を『版画』表現で再考する
山野英嗣(当館館長)
- ▶ 11月22日(日)
版画のきた道 美術が自分ごとになるとき
植野比佐見(当館学芸員)

いずれも 14 時～15 時 30 分 (13 時 30 分開場)
2 階ホールにて 定員 60 名 (先着順)



4. 戸張 孤雁《女学生》1920
和歌山県立近代美術館蔵

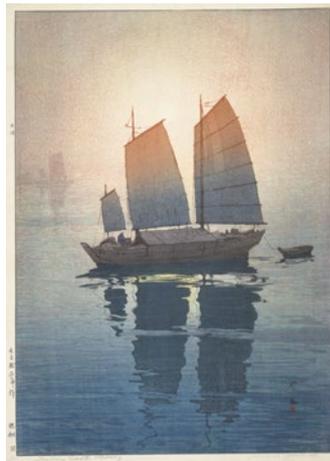


5. 藤牧義夫《つき》『新版画』第12号所収 1934
和歌山県立近代美術館蔵



展覧会構成

1. 「版画」前夜——印刷のなかの美術
2. 版に向かう画家たち——『方寸』の時代
3. 自己を刻む——創作版画という青春
4. 「日本」の版画を求めて——新版画という挑戦
5. 自立する版画——日本創作版画協会のころ
6. 版画の東西——震災、都市、モダニズム
7. 社会のなかで——日本版画協会のころ
8. 版画の戦後——再生、そして世界へ
9. 版への問い——版画の「現代」
10. 版に託す——私、心、イメージ



6. 吉田博《帆船 朝》〈瀬戸内海集〉
1926 千葉市美術館蔵【後期展示】



7. 橋口 五葉《化粧の女》1918
和歌山県立近代美術館蔵

主な出品作品



8. 福井良之助《けし(2)》1959 和歌山県立近代美術館蔵



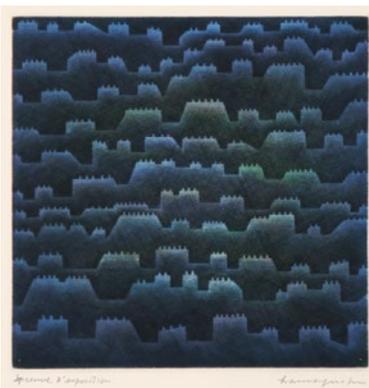
9. 山本鼎《プルトンヌ》1920
千葉市美術館蔵 【前期展示】



12. 田中恭吉《焦心》私輯『月映』II所収 1914
和歌山県立近代美術館蔵 【前期展示】



10. 高羽敏《草》1943 公益財団法人 西宮市大谷記念美術館蔵
【後期展示】



11. 浜口陽三《ハリの屋根》1956
和歌山県立近代美術館蔵

掲載用画像については、広報担当にお問合せ下さい。
文字のせ、トリミング等はお控えください。

【同時期開催】

開館 50 周年記念
和歌山県立近代美術館 コレクションの 50 年
【会期】9 月 19 日（土）～ 12 月 20 日（日）
【会場】1 階展示室

和歌山県立近代美術館

学芸担当：植野 比佐見、宮本久宣、青木加苗

広報担当：和佐

〒640-8137 和歌山市吹上 1-4-14

TEL 073-436-8690（代表）

FAX 073-436-1337

E-MAIL moma_w@future.ocn.ne.jp

WEB <http://www.momaw.jp/>

創建1250年記念特別展

国宝粉河寺縁起と粉河寺の歴史

開催要項

西国三十三所霊場の第三番札所として多くの参詣者を集める観音信仰の聖地、粉河寺。その名は、日本を代表する絵巻である、粉河観音の霊験を示した粉河寺縁起（国宝）によって広く知られています。縁起によれば、粉河寺は大伴孔子古により宝亀元年（770）に創建されたと伝えられ、令和2年（2020）はそれから1250年目の節目の年となります。

『枕草子』には寺は粉河と名が挙がり、後白河法皇の粉河観音への厚い信仰が知られるなど、都の人々にもその霊験が轟いた粉河寺は、観音信仰を基軸としつつ、葛城修験や禅律僧との結びつきも知られるなど、重層的な信仰が織りなされてきた大寺院でした。

この特別展では、国宝・粉河寺縁起をはじめ、粉河寺に伝来した縁起絵巻の数々を一堂に展示公開するとともに、かつての粉河寺領に伝わる仏像・仏画など豊かな宗教文化を示す資料や中世の古文書群など多様な文化財を紹介します。

古代・中世・近世における粉河寺縁起の受容のあり方を紐解くことで、縁起とともにあった粉河寺の豊饒な歴史を現代に浮かび上がらせる機会となりましたら幸いです。

【主催】 和歌山県立博物館

【会期】 令和2年（2020）10月17日（土）～11月23日（月・祝）（開催日数33日）

【休館日】 月曜日（ただし11月23日は開館）

【会場】 和歌山県立博物館（和歌山市吹上1-4-14〈和歌山城・南側〉）

【開館時間】 午前9時30分～午後5時

【入館料】 一般830円 大学生520円

※高校生以下、65歳以上、障害者の方、および県内に在学中の外国人留学生（外国人就学生を含む）は無料

【出版物】 出陳資料を掲載した図録を作成。

【出陳資料】（※予定）粉河寺縁起（国宝）、粉河寺縁起并験縁起、粉河寺御池海岸院本尊縁起、千手観音立像、菩薩頭、千手観音二十八部衆像、粉河寺参詣曼荼羅、粉河寺四至伽藍図、伝銀帝王像（以上粉河寺・粉河寺御池坊蔵）、千手千眼陀羅尼経（重文・道成寺蔵）、誓度院規式（重文・興国寺蔵）、粉河経塚出土品（奈良国立博物館蔵）、四天王立像（西方寺蔵）、方衆座文書（中山方衆座蔵）、王子神社文書（王子神社宮講保存会）、碑伝・護摩札（中津川行者堂蔵）、至一上人像（積尊寺蔵）ほか多数

【担当者】 和歌山県立博物館主任学芸員 大河内智之

〒640-8137 和歌山県和歌山市吹上1-4-14 和歌山県立博物館

TEL 073-436-8670(代表) 073-436-8684(学芸課直通) FAX 073-423-2467



国宝粉河寺縁起と

粉河寺の歴史

令和2年(2020) 10月17日(土)～11月23日(月・祝)

前期:10月17日～11月1日 国宝粉河寺縁起・前半「獵師による粉河寺創建譚」
後期:11月3日～11月23日 国宝粉河寺縁起・後半「長者娘の病を治す靈驗譚」

講演会 「粉河寺縁起と粉河寺の歴史」 大河内 智之(主任学芸員)

11月15日(日)、13時30分～15時、先着50名(要事前申込)

会場:和歌山県立近代美術館(博物館となり)2階ホール

※10月17日(土)9時30分から電話(073-436-8670)または博物館受付にてお申込み下さい。

休館日 月曜日(ただし11月23日は開館)

開館時間 9時30分～17時(入館は16時30分まで)

入館料 一般 830円(680円) 大学生 520円(410円) ※()内は20名以上の団体料金

高校生以下、65歳以上、障害者手帳をお持ちの方、県内在学中の外国人留学生は無料

主催 和歌山県立博物館



◆JR和歌山駅・南海和歌山市駅からバス「県庁前」下車、徒歩2分
◆和歌山ICから車で約20分 ◆和歌山港から車で約7分

和歌山県立博物館
http://www.hakubutu.wakayama-c.ed.jp
〒640-8137 和歌山市牧上1-4-14 TEL.073-436-8670 FAX.073-423-2467
WAKAYAMA PREFECTURAL MUSEUM
— 和歌山城・南側 —

創建1250年記念特別展 国宝粉河寺縁起と粉河寺の歴史

西国三十三所第三番札所、観音信仰の聖地、粉河寺。その名は、粉河観音の靈験を描いた日本最古の縁起絵巻の一つ、国宝・粉河寺縁起によって広く知られています。縁起によれば、粉河寺は宝亀元年(770)に大伴孔子古により創建されたと伝えられ、今年はそのから1250年目の節目の年となります。『枕草子』には、寺は粉河と名が拳がり、後白河法皇の粉河観音への厚い信仰が知られるなど、都の人々にもその靈験が轟いた粉河寺は、観音信仰を基軸としつつ、葛城修験や禅律僧の活動とも結びついた重層的な信仰が織りなされてきた大寺院でした。

この特別展では、平安時代に描かれた国宝・粉河寺縁起の全貌を、前後期に分けて展示公開するとともに、連綿と制作され続けた粉河寺のさまざまな縁起絵巻や縁起絵の数々を一堂に紹介します。またかつての粉河寺領に伝わる仏像・仏画・古文書もあわせて紹介し、縁起の寺・粉河寺の豊饒な歴史と重厚な宗教文化を、現代に浮かび上がらせる機会といたします。



①粉河寺縁起(国宝・粉河寺蔵) ②千手観音立像(粉河寺蔵) ③千手観音二十八部衆及び童男行者・大伴孔子古像(粉河寺蔵) ④粉河寺縁起(元禄本・粉河寺蔵) ⑤粉河寺観音靈験記(粉河寺御池坊蔵) ⑥粉河寺観音靈験記(粉河寺蔵) ⑦粉河寺御池海岸本尊縁起(粉河寺御池坊蔵) ⑧粉河寺参詣曼荼羅(粉河寺蔵) ⑨二天立像(西方寺蔵)

【創建1250年記念連携企画】
和歌山市立博物館 (和歌山市湊本町3丁目2)
特別展「紀三井寺展」
10月31日(土)～12月13日(日)

【周辺施設の展覧会】
和歌山県立近代美術館(博物館となり)
開館50周年記念特別展「もうひとつの日本美術史—近現代版画の名作200—」9月19日(土)～11月23日(月・祝)
開館50周年記念「和歌山県立近代美術館 コレクションの50年」9月19日(土)～12月20日(日)
和歌山県立紀伊風土記の丘(和歌山市岩橋1411)
特別展「埴輪が語る古墳の祀り」10月3日(土)～12月6日(日)



紀三井寺参詣曼荼羅(紀三井寺蔵)